

## 量は質を高める

千 藤 洋 三

年月の経つのは早いもの、のたとえ通り、敬愛する横先生がお亡くなりになられてから、あっという間に一年が過ぎ去ろうとしています。

できの悪い関西大学助手としての私を叱咤激励して下さった先生。私たち夫婦の結婚式で、「早く芽を出せかきのタネ」と名スピーチをして下さった先生。研究室で学問への情熱や、家族法学の父とも母ともいわれた中川善之助教授のことなどを熱くお話しして下さった先生。このような思い出の多い素晴らしい先生は、もはやこの世におられません。

関西大学を去られた後も、先生は、ときどき大学に来られ、とくに図書館を御利用なされた。法学部資料室にも来られたが、その折りなどに、私の研究室にも、肩からバックを下げられたいつものお姿で、ふらっとお立ち寄りになりました。お話は御研究のことが大半でしたが、ただ、晩年には、これまでやってこられた学問を実務に活かすべく弁護士活動への夢を語っておられたのが印

象的でした。

私は今、先生が与えて下さった数々の御厚情・御指導に十分に応えることができていない私のふがいなさに苦しんでいます。「論文は最初から質のよいものを書き上げようと思わずに、数多く書いているうちに、質を高めることができるから、「頑張るように」と励まされていたのですが……。

これからは、先生のお言葉を胸に刻み、日々、精進していこうと思います。先生、ありがとうございます。

合掌